

## II 被災地の病院や避難所での救護活動に必要な知識と技術

### 1 疾患・症状への対応

# 5) 感染症

日本医科大学付属病院医療安全管理部門感染制御部看護師長・感染管理認定看護師 ふじた まさひさ 藤田昌久

## 災害時の感染予防のポイント (表 1)

災害時は、外傷による破傷風などの直接的な感染症のほか、不衛生な生活環境に起因する感染症への対策が優先されるが、市中感染症として発症する感染症の場合は手狭な生活環境から、大きく拡散する危険性が高い。また潜伏期が短い疾患もあり、数人の発症患者を発見した時点で大きな拡散を起こしていることもあるため、疑い患者を迅速に発見する必要性が高い。災害時は通常の医療を提供できる環境や市中感染症を予防する物品など（マスク、手洗い環境）に乏しいため、その救護所・避難所で何が最も感染対策として優先されるのかを考えて対応しなくてはならない。

## 飛沫感染予防策

### 患者の把握

患者の早期発見のために発熱、悪寒、上気道炎症状などを健康チェックの項目に挙げ、確認する。または掲示物による啓発により、症状を自己申告しやすい環境を提供する。

### 感染予防策

適正な湿度調整は困難であるため、不織布マスクの着用や咳エチケットの指導・実施な

ど、救護所・避難所内での啓発に努める。

気道分泌物による間接接触感染に対する予防も必要である。次亜塩素酸ナトリウムまでは必要ないが、アルコール含有不織布があれば最も効果的である。またはそのほかの既製品の消毒薬含有不織布による湿式清拭が効果的であり、特に頻繁に手が触れる個所（ドアノブ、取っ手、スイッチ類、蛇口・カラン）を重点的に行う。

## 接触感染予防策

### 患者の把握

心理的ストレスや食事内容などに起因することもあるため鑑別が必要であるが、患者の早期発見のために健康チェックの項目に嘔気・嘔吐・下痢を挙げ、確認する。またはトイレや洗面所への掲示物による啓発により、症状を自己申告しやすい環境を提供する。

### 感染予防策

約 0.02% の次亜塩素酸ナトリウムが効果的である。また汚物・吐物によると思われる目に見える汚染は、ビニール袋や手袋を使用してふき取った後にその個所を清拭する。この場合、汚染の飛散による感染を防止するためマスクの着用が効果的である。

表 1 感染症対応一覧

	飛沫感染予防策	接触感染予防策	空気感染予防策
患者の早期発見	健康チェックとともに、症候群サーベイランス（発熱、上気道炎の症状、嘔気・嘔吐・下痢）		・数週間の咳、微熱の持続 ・皮疹・水疱
感染対策	・サージカルマスク （市販の不織布マスク） ・咳エチケット ・手指衛生 ・環境整備	・手洗い ・環境整備 （次亜塩素酸ナトリウム使用） ・汚物／吐物処理器材の事前準備 ・廃棄物処理場所の確保	・疑い患者のサージカルマスク （市販の不織布マスク）着用
発症者対応	・集団隔離 ・パーテーション対応 （緊急回避時）	・集団隔離 ・ビニール袋などの吐物処理や環境整備に必要な物品の準備	・避難区域での居住は困難なため、近隣やコアとなる医療機関に相談
想定される感染症	・インフルエンザ ・マイコプラズマ肺炎 ・咽頭結膜熱 など	・感染性胃腸炎 ・带状疱疹 ・流行性角結膜炎 など	・結核 ・播種性帯状疱疹 ・麻疹 ・水痘 など

既製品の消毒薬含有不織布による湿式清拭が効果的であり、特にトイレや洗面所において頻繁に手が触れる個所を重点的に行う。

発症患者が発生した際には各個人が対応できるように消毒薬含有不織布をトイレや洗面所に準備したり、清掃の頻度を上げるなどの対応のコンプライアンス向上を図る。また、感染性のある廃棄物は生活居住場所以外に所定の廃棄物集積所を定め廃棄する。

## 空気感染予防策

### 患者の把握

診断に至るプロセスは必ずしも迅速に対応できるとは限らず、また、被災時のさまざまな汚染物質などへの曝露による皮膚症状や発

熱などの複合症状を認める場合もあるが、早期発見のために健康チェックの項目に皮疹（水疱）・数週間に及ぶ咳・微熱の持続が該当する場合には受診・治療を勧める。

麻疹や水痘は潜伏期がおおよそ 10 日程度であるため、確定診断された場合には同居者や周囲に滞在している関係者に対する接触者調査が必要となる。

### 感染予防策

空気感染予防策においても気道排出される飛沫の拡散を予防するために、発症または疑い患者にはサージカルマスク（市販の不織布マスクでもよい）を着用してもらう。

#### これだけは覚えておこう！

- ・被災時の感染症は個人の衛生行動の問題として考えずに、特異的な環境で起こり得るものとして考え、差別感や蔑視のないように医療者が救護所・避難所において啓発する。
- ・限られた物資の有効活用と感染対策の理解と正しい実施、感染症患者の早期発見のためにも教育・啓発の機会をつくり実施する。
- ・各救護所や避難所の責任者に該当する者や前任の担当者からの情報収集に努め、その救護所や避難所で何が最も感染対策として優先されるのかを考えて対策を立てる。